

## 5年目を迎えた奈良教育大学の科目「山間地教育入門」のこれまでと「へき地教育・地域創生プログラム」の開設

奈良教育大学社会科教育講座准教授      ○河本大地  
奈良教育大学教育連携講座教授      中澤静男  
奈良教育大学学校教育講座教授      板橋孝幸

### 1 はじめに

へき地・小規模校教育の未来を形づくるためには、その担い手の育成が欠かせない。同時に、過疎化や少子高齢化、地域資源管理の困難化などの課題の先進地とも言える、「へき地」と呼ばれる山間地・離島などの地域の未来を構築することも大切である。少子化等の影響を受けて学校統廃合（学校再編）が繰り返されている小規模校の価値を高め、維持・発展させることにも目を向けたい。そこで本発表では、奈良教育大学の主として学部生向けに実施してきた過去5年間の取組を事例として振り返り、今後のあり方を探る。

### 2 奈良教育大学の科目「山間地教育入門」のこれまで

奈良教育大学では、教職大学院の「へき地教育実習」以外に、へき地・小規模校教育を中心に扱う授業科目がない状態が続いていた。しかし、奈良県の面積の過半は山間地域であり、また序章で述べたような課題をふまえた全国的ニーズもある。

そこで、「奈良教育大学と奈良県教育委員会との連携協力に関する協議会」に設置している「へき地教育部会」では、2018（平成30）年度に奈良教育大学教育学部に自由科目「山間地教育入門」を開設した。大学と県教委との連携で運営し、へき地教育の課題と可能性の理解や、山間地域における教育活動に対する参加・参画意欲の向上を目的としている。

本科目では、スタディツアーとその事前・事後学習を組み合わせ実施してきた。スタディツアーの行き先は毎年度変わる。奈良県ではへき地を6ブロックに分けており、ある年度に奈良県へき地教育研究振興大会の会場となったブロックが翌年度に私たちを受け入れるという仕組みを、奈良県へき地教育振興協議会という奈良県へき地関係自治体の教育長の組織がつくってくれた。2018年度は曾爾村・御杖村、19年度は上北山村・下北山村、20年度は十津川村、21年度は川上村・東吉野村、22年度は奈良市・山添村で、オンラインや日帰り複数回、2泊3日など、時期と地域に応じた形で実施してきた。また、スタディツアーの事前学習は、奈良県山間地域（南部・東部）の地理や複式学級の授業づくり体験、へき地・小規模校で勤務した経験のある県教委指導主事等によるゲスト講義、へき地・小規模校とのオンライン交流などの内容で7回程度実施している。

本科目を通じて受講生は、山間地域およびそこに位置する小規模校の課題と可能性への理解を深めている。また、山間地域の小規模校の教員に必要な資質能力を考え、自らの学びと照合しながら地域や社会を持続可能にするためのへき地教育の必要性を実感しており、満足度は高い（河本・中澤・板橋、2020）。ただし、フィールドでの地域理解を促進すること、本科目既習者向けに教育実習等の機会を設けることなどが課題となってきた。さらに、へき地学校勤務を積極的に希望する学生が、それを教員採用の場で伝えるには、1科目の履修だけではアピールの素材として不十分であった。加えて、コロナ禍の影響もあって、さらなる学びの機会を欲する本科目既修者の声に十分に応えられていなかった。

### 3 「へき地教育・地域創生プログラム」の開設

2022年度に、奈良教育大学の特色プログラムとして開設した。既設の特色プログラムとして「ESD (Education for Sustainable Development) ティーチャープログラム」、「SST (Super Science Teacher) 養成プログラム」、「文化遺産教育プログラム」等があり、この仕組みを活用して本学の有する学びの機会を体系化し、学生に機会提供したいと考えた。

プログラムの実施主体は、本学の次世代教員養成センターを改組して2022年度に設置されたESD・SDGsセンターとした。ESDで重視されるローカル・地域の未来構築と、へき地教育とは相互に深く関連している。同センターでは、へき地教育・地域創生を事業の中に位置付けており、前述の「へき地教育部会」や、従来から本学のESDにおいて重要な役割を果たしている近畿ESDコンソーシアムとも積極的に連携・協働し、ESDとしてのへき地教育や地域創生を推進していきたいと考えている。

プログラムは3つの要件からなる。第一に、所定の科目の単位修得がある。「山間地教育入門」を必修とし、「未来志向でへき地を理解する科目」2科目と、「郷土教育（地域学習）に関する科目」3科目から、各1科目を選択必修とした。第二に、へき地・小規模校教育実践への参画がある。奈良県の南部と北部の子どもたちの交流を進めるプロジェクトへの参画や、3回生以上の必修科目「学校フィールド演習Ⅱ（学校インターンシップ）」や教育実習をへき地・小規模校をフィールドにして単位修得した場合などを対象にした。第三に、へき地教育関連イベントへの参加がある。第二・第三の要件については、学生の作成したポートフォリオを審査し、要件を満たしていれば年度末に認定証を授与する。

#### 資料

- ・ウェブサイト「奈良県発☆へき地教育」 <https://naraheki.wordpress.com/>（奈良教育大学と奈良県教育委員会との連携協力に関する協議会 へき地教育部会）
- ・河本大地・中澤静男・板橋孝幸（2020）：奈良教育大学の「山間地教育入門」2年目の実施と受講生の評価．地域学習研究、7、pp.1-14.

[https://researchmap.jp/daichi/published\\_papers/26932647](https://researchmap.jp/daichi/published_papers/26932647)